

みずほCustomer Desk Report 2020/01/21号 (As of 2020/01/20)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	110.19
TKY 9:00AM	110.20	1.1095	122.26	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	110.22	1.1102	122.31	1.3005	0.6882
SYD-NY Low	110.02	1.1077	122.04	1.3012	0.6888
NY 5:00 PM	110.18	1.1096	122.26	1.2962	0.6856
NY DOW	-	-	日本2年債	-0.130	0.00bp
NASDAQ	-	-	日本10年債	0.004	0.35bp
S&P	-	-	米国2年債	-	-
日経平均	24083.51	42.25	米国5年債	-	-
TOPIX	1744.16	8.72	米国10年債	-	-
シカゴ日経先物	-	-	独10年債	-0.2200	▲0.30bp
ロンドンFT	7,651.44	▲23.12	英10年債	0.6480	1.80bp
DAX	13,548.94	22.81	豪10年債	1.1725	▲1.05bp
ハンセン指数	28,795.91	▲260.51	USDJPY 1M Vol	4.30	0.07%
上海総合	3,095.79	20.29	USDJPY 3M Vol	4.80	▲0.05%
NY金	-	-	USDJPY 6M Vol	5.29	0.03%
WTI	-	-	USDJPY 1M 25RR	-0.70	Yen Call Over
CRB指数	-	-	EURJPY 3M Vol	5.45	0.04%
ドルインデックス	97.61	0.00	EURJPY 6M Vol	5.88	0.05%

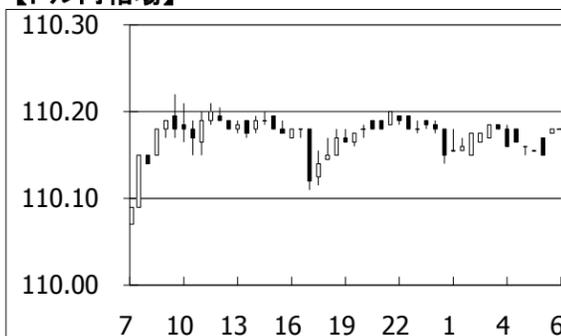
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月20日	13:30	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・確報	11月 -1%/-8.2%	-

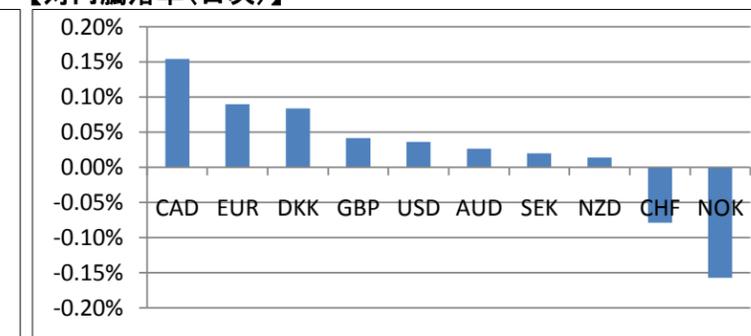
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
1月21日	18:30	英 週平均賃金(除賞与/3ヵ月/前年比)	11月 3.4%	3.5%
	19:00	独 ZEW調査(現状/期待)	1月 -13.5/15	-19.9/10.7
		日 日銀金融政策決定会合 当座預金政策金利	-0.10%	-0.10%
		日 黒田日銀総裁 記者会見		

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京	ドル円はアジア・オセアニア時間に110.02をタッチする場面があったものの、110円の節目が意識され、東京時間は値を戻して110.20レベルでスタート。新規材料に乏しい上にNY休日で市場参加者が限られていたことから110.20近辺の狭いレンジで動意の薄い展開が続き、110.18レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、110.18レベルでオープン。米市場が休場中、様子見ムードが強かった。110円を挟んで狭いレンジで推移し、110.18レベルでクロス。ポンドドルは、1.2991レベルでオープン。月末に予定される英中銀会合での利下げの懸念から、朝方はポンド売りが先行し、1.2962まで下落。しかし、その後は、1.30台を再び回復し、新規材料と経済指標の発表が無いなか、同レベルを挟んで推移。1.2996レベルでクロスした。(ロンドン・フリー 00531 444 179 マクルヒル)
ニューヨーク	休場

【マーケット・インプレッション】 国際秩序の根底が揺らいでいる

ローマ帝国崩壊以来、国際的な安全保障上の課題はヨーロッパにあった。しかし足許で中国の覇権的拡大路線によって最重要な課題はインド太平洋地域に移行してきていることは改めて指摘するまでもない。17世紀にローマが衰退して以来これまでの世界秩序はヨーロッパを中心に自由と民主主義、法治国家であることを前提にして個人の人権を育ててきた。基本的なルールを基礎とした自由で開かれた国際秩序こそがこれまでの世界の根幹であった。

しかしながらここにきて、中国が「一帯一路」構想を錦の御旗に、欧米主導である従来の世界秩序を覆し、中華的な世界の実現を目指して覇権獲得に乗り出してきた。従来であれば米国を中心に旧勢力が団結して新興勢力を牽制したに違いないのであるが、トランプ米大統領は米国第一主義を打ち出して二国間ディール政策へと舵を切り、旧勢力を纏めるに至っていない。実際、その影響は甚大で、多国間自由貿易体制の守護神であったWTOは機能不全に陥っている。中国が旧来の世界秩序に挑戦してきている状況で米国が世界から目を背けて自国のみの利害で行動している。台風の目はインド太平洋地域にある。残された他の国々は米中どちらを向けばいいのであろうか。どちらの国の行動も自由で開かれた世界秩序にはそぐわないが、敢えて選ぶならばやはり米国であろうか。積極的に選ぶべきだが、消去法的に米国を選ばざるを得ないというのが実情であろうか。足許の煮え切らないじわーとしたドル買いの理由はそういうことであるかもしれない。

活発な為替相場の前提もまさに自由で開かれた世界秩序であり、それが揺らいでいることへの不安がリスクをとることに陰を差しているのではないだろうか。当局としては膠着する為替相場は歓迎であろうが、市場が停滞している世界というものは決していいものではないと思う。(加藤)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 加藤・上地 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ペア	ブル	ブル	ペア	ブル	ブル	ブル	ペア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ブル	ブル	ペア	ブル	ブル	ブル

ブル	ペア
14	6